

不稔および斑点米を発生させるイネカメムシの 発生状況と対策について

「イネカメムシ」の発生が過去11年で最も多くなっています。
出穂期と乳熟期の2回防除を実施しましょう！



写真1 イネカメムシ成虫

イネカメムシの特徴

【生態】

- ・体長約13mm。茶褐色で背部両側に白色帯を持つやや細長いカメムシ。
- ・7月頃から水田に飛来、穂を加害する。出穂期頃から発生が増加する
- ・県内では年1～2世代を経ると考えられ、卵からかえった幼虫も穂を加害しながら成長する。
- ・盛夏期の日中はイネの株元に潜み、夜間～午前中に穂へ来ることが多い。
- ・他の斑点米カメムシ類と異なり、雑草地を経由せず、直接水田へ飛び込む。

【被害】

- ・籾の基部を好んで加害するため、基部斑点米を生じさせるのに加え、不稔を引き起こし減収させる。

イネカメムシは斑点米カメムシ類の一種で、斑点米を発生させるだけでなく、出穂期から乳熟期の加害により不稔（青立ち）を引き起こして減収を生じさせることから、近年全国的に問題となっています。

茨城県下においても主要種クモヘリカメムシに加え、年々発生増加の傾向にあります。

1. すくい取り調査結果

普及センターが7月12日に実施した管内4地点でのすくい取り調査の結果、既に出穂した早生品種の2地点でイネカメムシの発生が認められ、未出穂の中生、晩生品種では発生が認められませんでした（表1）。

また、茨城県病虫害防除所による7月上旬調査では県西地域の斑点米カメムシ類の発生虫数は過去11年中最多であり（表2）、7月上旬調査としては初めて出穂前のコシヒカリでイネカメムシの発生が認められました（表3）。 ※令和6年7月11日発表 病虫害発生予察注意報 第2号参照

表1 斑点米カメムシすくい取り調査結果 (7月12日調査)

調査地点	品種	水稻の 生育ステージ	すくい取り虫数(頭/10回振り)※	
			イネカメムシ	アカスジカスミカメ
境町	一番星 (早生)	出穂期	4.5	1
	にじのきらめき(中生)	幼穂形成期	0	0
坂東市 (猿島町)	一番星 (早生)	穂揃期～乳熟期	5.5	0
	夢あおば (晩生)	幼穂形成期	0	0
平均			2.5	0.3

※ すくい取りは捕虫網20回振り2反復で行い、虫数(頭)はその平均値を10回振りに換算した。

(病害虫注意報 第2号からの抜粋)

表2 水田内における斑点米カメムシ類の地域別生息状況 (令和6年7月上旬調査)

地域	調査 地点数	すくい取り虫数(頭/10回振り)			発生地点率(%)		
		本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾
県西	9	7.61	0.11	1	56	17	1
全県	57	2.35	0.24	1	40	16	1

1) 平年:平成26年～令和5年までの10年間の平均値を示す。

2) 順位: 本年を含む過去11年間における本年値の順位を示す。

表3 水田内におけるイネカメムシの地域別生息状況(表2からの抜粋) (令和6年7月上旬調査)

地域	調査 地点数	すくい取り虫数(頭/10回振り)			発生地点率(%)		
		本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾
県西	9	7.17	0	1	11	0	1
全県	57	2.04	0.003	1	14	1	1

1) 同表1

2) 同表2

2. 防除対策

① 1回目防除：不稔被害の防止・軽減

イネカメムシの不稔被害の軽減を目的とした防除は、出穂期～穂揃期に行う。

他の主要な斑点米カメムシ類と異なり、穂揃期以降ではなく出穂期に防除することが重要となる。

② 2回目防除：斑点米の防止・軽減

斑点米被害の軽減を目的とした防除は、乳熟期（出穂後10～15日頃）に行う。

乳熟期以降の幼虫密度が高いと斑点米の発生量が多くなる。

③ 発生量が多い地域は出穂期と乳熟期の2回散布が望ましい。現在すでにイネカメムシ（成虫）の発生が確認されているので、中生（コシヒカリ）の出穂期頃には既に幼虫が発生している可能性がある。

④ 空中散布を実施する地域では、コシヒカリの生育に合わせて、いもち病とカメムシ防除を行うので、早生品種（一番星など）や晩生品種（あさひの夢など）では、防除適期が異なるため注意する。また、空中散布では異なるIRACコードの薬剤を使用するよう留意する。

表2 稲のカメムシ類に登録のある主な薬剤 (令和6年7月10日現在)

薬剤名	使用方法	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	有効成分	同左毎の総使用回数	IRACコード
スミチオン乳剤	散布	1,000倍	収穫21日前まで	2回以内	MEP	3回以内 ¹⁾	1B
キラップフロアブル	散布	1,000～2,000倍	収穫14日前まで	2回以内	エチプロール	2回以内 ²⁾	2B
トレボン乳剤	散布	2,000倍	収穫14日前まで	3回以内	エトフェンブロックス	3回以内	3A
アルバリン顆粒水溶剤/ スタークル顆粒水溶剤	散布	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	ジノテフラン	4回以内 ³⁾	4A
エクシードフロアブル	散布	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	スルホキサフロル	3回以内	4C

1) 但し、種もみへの処理は1回以内、育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内

2) 但し、は種時(直播)又は移植時までの処理は1回以内

3) 但し、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内

※ 農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項等を確認する。

※ 育苗箱施用剤による防除、航空防除等を行っている場合は、本剤の使用回数ならびに有効成分の総使用回数に十分注意する。